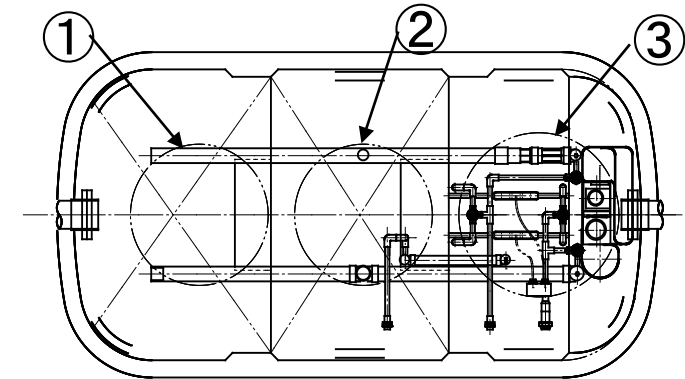
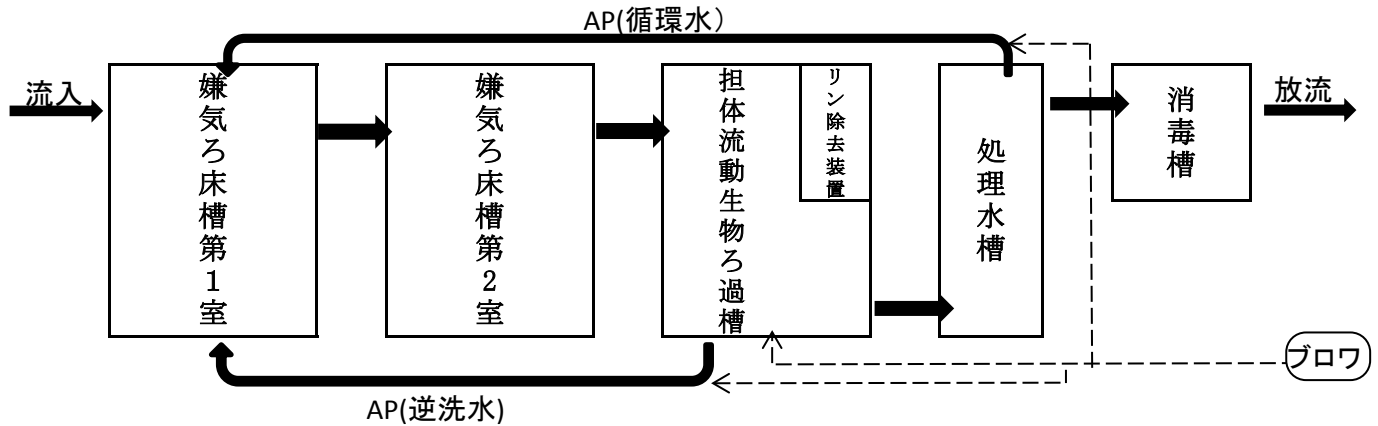
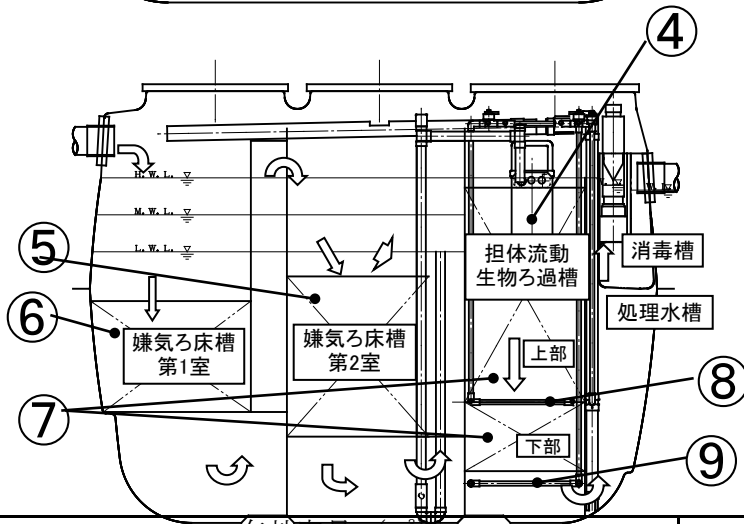


CRX フジクリーン工業(株) OEM: SJS 三洋電機(株) 共同開発: なし 処理方式: 流量調整型嫌気ろ床・担体流動生物ろ過方式 にリン除去装置を加えた方式 5・6・7・8・10人槽	窒素・リン除去型			全浄協登録値				
	BOD	T-N	T-P	SS				
	20mg/L以下	20mg/L以下	1mg/L以下	—				
	性能評定または性能評価値							
	BOD	T-N	T-P	SS				
10mg/L以下	10mg/L以下	1mg/L以下	10mg/L以下					



- ①嫌気ろ床槽第1室
- ②嫌気ろ床槽第2室
- ③担体流動生物ろ過槽
- ④制御ボックス/中継ボックス/セル
- ⑤骨格様球状ろ材
- ⑥波板状ろ材
- ⑦担体
- ⑧散気管
- ⑨逆洗管



有効容量 (m ³)		5人槽	6・7人槽	8・10人槽
槽名	嫌気ろ床槽第1室	0.928	1.301	1.826
	嫌気ろ床槽第2室	0.949	1.309	1.813
	担体流動生物ろ過槽		0.728	1.044
	処理水槽		0.265	0.362
	消毒槽		0.021	0.024
	合計		2.891	3.624

槽底部からろ材受け面までの距離(mm)	第1室	430
	第2室	350

流量調整機能	循環装置	循環装置バルブ目盛(%)			逆洗装置	逆洗水移送バルブ目盛(%)			逆洗バルブ目盛(%)	散気バルブ目盛(%)
		5人	6・7人	8・10人		5人	6・7人	8・10人		
有	有	30～35	30～35	35～40	有	45	45	50	50	50

人槽	ブロワ1型式	ブロワ2型式	散気風量 (ℓ/分)	逆洗風量 (ℓ/分)	逆洗時刻	逆洗時間 (分)	逆洗回数 (回)	逆洗周期
	移送・逆洗用	散気・逆洗用						
5～10	MR38AN	MR88BN	80	80	2:00 3:00	5	2	1日

[人槽に対する循環水量の設定範囲]

人槽	5	6・7	8・10
循環エアリフトポンプ 循環水量(ℓ/分)	2.4～3.1	2.9～4.4	3.9～6.3

回転せきの調整目安表(500mlペットボトルの場合)

放流時間	放流量	設定水量(m ³ /日)				
		1.0	1.2	1.4	1.6	2.0
秒	m ³ /日					
15	2.9	左3	左2	左2	左2	左1
20	2.2	左2	左1	左1	左1	0
25	1.7	左1	左1	左1	0	右1
30	1.4	左1	0	0	0	右1
40	1.1	0	右1	右1	右1	右2
50	0.9	右1	右1	右1	右2	右2
60	0.7	右1	右1	右2	右2	右3
90	0.5	右2	右2	右2	右3	左3

[人槽に対する逆洗水量の設定範囲]

逆洗水エアリフトポンプ 移送水量 30秒後の水位差(mm)	逆洗回数	5人槽	6・7人槽	8・10人槽
	2回/日	55	40	43
	1回/日	110	80	85

特 徴

嫌気ろ床槽 第1室、第2室ともに下向流である。第1室には波板状ろ材、第2室には骨格様球状ろ材が充填されている。槽上部に流量調整部が設けられ、水位が変動する。流出水は第2室に設置されたエアリフトポンプによって担体流動生物ろ過槽へ移送される。

担体流動生物ろ過槽 担体流出を防止する担体押さえと担体架台の間に、φ14×14mmの中空円筒状担体が充填されている。上部(好気部)では担体を流動させ、BOD除去に加えて硝化反応が進行する。下部(ろ過部)では担体が静置され、SSが補足される。上下2層を区分する網様の仕切り等は設置されていない。なお、ろ過部の閉塞を防止するため、タイマー制御にて逆洗管から送気され(標準で1日2回、各5分)、担体の攪拌混合を逆洗水の嫌気ろ床槽への移送が行われる。(自動逆洗)また、槽内上部にリン除去装置のセルが設置されている。

リン除去装置 制御ボックス、中継ボックス、セル(鉄電極)で構成される。通電により、汚水中のリン酸イオンがリン酸鉄となる。リン酸鉄は担体流動生物ろ過槽のろ過部で補足された後、逆洗時に嫌気ろ床槽第1室へ移送され、汚泥とともに貯留される。

処理水槽 流出部の流量調整装置で放流量が調整される。

作業時のポイント

保守点検

- ①担体流動生物ろ過槽は、タイマーにより定期的に自動逆洗を行います。このタイマーが適正に設定されていないと、担体流動生物ろ過槽の閉塞などのトラブルが発生しますので、タイマーの現在時刻と設定を確認してください。
- ②循環水量が適正な量(上表参照)になっているか必ず実測して確認してください。
- ③逆洗時の汚泥移送量が適正な量(上表参照)になっているか必ず確認してください。
汚泥移送量が多すぎると担体流動生物ろ過槽内の生物量が不足し、処理性能に悪影響を与えるので、注意してください。
- ④放流量は、流入水量(Q)の等倍量を基本としています。回転せきの高さを調節して、放流量を調整してください。500mlペットボトルを回転せきに挿入しボトルを引き上げた後、元の水位に戻るまでの時間を計測。この結果と流入水量に基づき回転せきを回転させ放流量を調整してください。(上表参照)
- ⑤リン除去装置・制御ボックスの電源ランプの点灯・鉄電極の消耗・パワー調整ダイヤルの設定状況を点検してください。
鉄電極は4カ月ごとに交換し、使用後の電極は水洗い後一般廃棄物(不燃物)として廃棄してください。

清掃

- ①清掃前に逆洗を行い、担体流動生物ろ過槽の浮遊物や処理水槽のスカム、汚泥は第1室へ移送してください。
- ②嫌気ろ床槽第1室については全量引き抜きです。第2室は適正量としてください。